

研究課題名：	インフルエンザ A 入院患者における Ct 値と発症日および感染性との関連に関する検討
所属（診療科等）：	公立昭和病院（感染管理部）
研究責任者（職名）：	一ノ瀬 直樹（院内感染管理者）
研究代表者（所属）	
試料・情報の提供責任者：	公立昭和病院 院長 坂本 哲也
試料・情報の管理責任者：	
研究期間：	2026 年 5 月 15 日～2027 年 3 月 31 日
研究目的と意義：	<p>インフルエンザは入院患者において院内感染のリスクを伴う重要な感染症であり、適切な感染対策の実施が求められる。特に隔離期間の設定は、感染拡大防止と医療資源の適正利用の両立という観点から重要であるが、現状では発症後の経過日数や症状に基づいた一律の基準が用いられることが多く、実際の感染性を必ずしも正確に反映しているとは限らない。</p> <p>近年、リアルタイム RT-PCR 検査における cycle threshold (Ct) 値は、ウイルス RNA 量の指標として用いられており、感染性との関連が示唆されている。特に呼吸器ウイルス感染症においては、Ct 値が高値となるにつれて感染性が低下する可能性が報告されているが、インフルエンザにおいて Ct 値と感染性の関係は十分に確立されていない。</p> <p>また、Ct 値は発症からの経過日数と一定の関連を示すことが知られているものの、その時間的推移や臨床的意義については十分な検討がなされていない。特に入院患者を対象としたデータは限られており、隔離解除の判断に応用可能な客観的指標としての有用性は明らかでない。</p> <p>本研究は、インフルエンザ A で入院した患者を対象に、リアルタイム RT-PCR により得られた Ct 値と発症からの日数との関連を明らかにすることを目的とする。さらに、Ct 値を感染性の代替指標 (surrogate marker) として捉え、隔離解除の適切なタイミングに関する臨床的意義を検討する。</p>
研究内容：	<p>●対象となる患者さん 2025 年 11 月 1 日から 2026 年 2 月 28 日までの期間に、公立昭和病院に入院し、リアルタイム RT-PCR 検査によりインフルエンザ A と診断された成人患者</p> <p>●利用し、又は提供する試料・情報の項目 【患者背景】年齢・性別・併存疾患・免疫抑制状態の有無 【臨床情報】発症日・症状（発熱、咳嗽など）・バイタルサイン（体温、SpO₂ など）・酸素投与の有無 【画像所見】胸部単純 X 線検査所見・胸部 CT 検査所見 【検査情報】リアルタイム RT-PCR 検査結果 (Ct 値) ・検体採取日・血液検査 (腎機能：血清クレアチニンなど) 【治療情報】抗ウイルス薬の使用 (oseltamivir, peramivir など)</p> <p>●提供する試料・情報の取得方法 電子カルテシステム</p> <p>●試料・情報の利用目的及び利用方法 (他機関へ提供する場合は、その方法を含む) 電子カルテ情報を用いて、後方視的に収集・調査する。</p>

●利用する者の範囲（当該研究を実施する全ての共同研究機関の名称及び研究責任者の氏名）
公立昭和病院

問い合わせ先：

【研究担当者】（研究全般に関すること）

氏名：一ノ瀬 直樹（感染管理部）

住所：小平市花小金井 8 丁目 1 番 1 号

電話：042（461）0052（代表） FAX：042（464）7912

【ご意見・相談窓口】（研究・診療内容に関するものは除く）

総務課 042（461）0052 内線 2247

受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）